

【高等学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立鹿島高等学校
1 前年度 評価結果の概要	【学力の向上】については、概ね指標を達成することができた。次年度も引き続き、わかりやすく、学習意欲が向上するような授業の実施を通して学力の向上を目指したい。社会に貢献する志については十分達成してきているので、難関大学を含む受験に対応する学力をつけることを強化していきたい。 【心の教育】については、「豊かな教育活動の実践」について計画した取り組みは予定通り実施したにもかかわらず、「人間的成長」「自己有用感」についての指標達成に至らなかった。次年度は成果指標と具体的取り組みが連動するものとなっているかを十分検討して計画を立てたい。「いじめへの対応」については概ね定着してきたように思えるので、今後は「相手に寄り添う心」を養う教育の実践等の予防的対策について考えたい。 【健康・体づくり】については、今年度指標に遠く及ばなかった自転車通学生のヘルメット着用について、アンケートでは「校則等で義務化すればよい」という意見が多数であったが、卒業後の安全・命を守る行動につなげるため、引き続き「主体的な着用」にこだわって着用率の向上につながる取り組みを推進していきたい。 【業務改善・教職員の働き方改革の推進】については、概ね成果指標を達成した。引き続き業務を3つの観点（①基本的には学校以外が担うべき業務、②学校の業務だが、必ずしも教員が担う必要のない業務、③教員の業務だが、負担軽減が可能な業務）に分けてさらなる業務改善を進めていきたい。 【唯一無二の誇り高き学校づくり】の共通指標である「自分の学校を中学生に勧めることができる」割合については、次年度は数値部分を見直したい。また、調査によって判明した進路や生徒のモラルに関する不安については関係分掌で対応を検討し、解消を図りたい。また、SAGAコラボレーション・スクール、旭ヶ岡キャリア塾・キャリアラボ等の運営を軌道に乗せて本校の特色の一つとすることで志願者増につなげていきたい。
2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	SAGAスクール・ミッション ○旧制鹿島中学校以来の伝統と新しい取組を融合させ、探求（探究）活動や普通科改革を推進するとともに、地域の力の積極的な活用を通して地域の期待に応え続ける学校を目指す。 ○三つの学科（普通科、商業科、食品調理科）の相互作用を通して、社会を支え未来を切り拓く有為な人材を育成する。 学校教育目標 ○他者を尊重し、誠実で豊かな心と大きな志をもって逞しく未来を切り拓く力を育てる。

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標	「至誠にして大志を抱き、探求に努めよ。」
	①【至誠】 何事にも誠実に真心をもって取り組む生徒。	〔普通科〕 ①大学進学を目指し、確かな学力を身につけます。 ② 1 年次は共通の学びで教科・科目の基礎を固めます。 ③ 2 年次からは各コースで特色のある学びを始めます。 ＜文理探求進学コース（文系・理系）＞ ④ 英語・数学に重点を置いて、大学進学のための学力や幅広い教養を身につけます。 ＜未来探求進学コース（文系）＞ ⑤ 学校設定教科で、大学入試だけでなく大学での研究や企業等においても求められる力（MIRAIの力*）を身につけます。 *MIRAIの力＝「M」見つける力 「I」イメージする力 「R」理解する力 「A」表す力 「I」活かす力	①わかること、できることをたくさん増やせるよう、学習する意欲のある人。 ②大きな目標をもって頑張ることができる人。 ③多くの友人たちと、学校行事、部活動などに真面目に取り組もうとする人。		① 授業・進路指導の充実によって、あくなき探求心の下、確かな学力・技能向上を図り、生徒の進路保障を実現する。
	②【大志】 人々のために自分に何ができるか、大きな志を持ち行動する生徒。	〔商業科〕 ①共通の学びで知識・教養を身につけます。 ②専門科目でプロとしての力を磨きます。 ③就職、進学に向けて、丁寧に学びを積み重ねます。 ④商業やビジネスに関わる専門知識や技術を習得し、様々な資格を取得します。 ⑤課題研究や総合実践で、社会に役立つ実践的スキルを身につけます。			②教育活動全体を通して誠実で豊かな心を育み、生徒の人間の成長を図る。
	③【探求】 自分を高めていくために、日々真実や真理を探し求める生徒。	〔食品調理科〕 ①共通の学びで知識・教養を身につけます。 ②専門科目でプロとしての力を磨きます。 ③就職、進学に向けて、丁寧に学びを積み重ねます。 ④プロの調理師から和洋中の調理技術と知識を身につけます。 ⑤課題研究や専門教科の授業で学びを深め、調理師免許を取得します。			③学校体育・学校保健等の充実によって、健やかな体を育み、生徒の逞しい成長を図る。
					④不断の業務改善・意識改革によって、教職員のワークライフマネジメントを推進する。
					⑤コミュニティスクールの充実や普通科改革、商業科・食品調理科の更なる魅力発信によって学校全体の魅力を高め、志願者増を図る。

5 重点取組内容・成果指標					主な担当者
(1)共通評価項目					
評価項目	取組内容	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	○「わかる授業」「できる授業」の実践	○授業の進度や内容が適当であると思う生徒を85%以上、授業をとおして学力が向上したと思う生徒を85%以上、主体的に学ぶことができると思う生徒を90%以上にする。 ○新学習指導要領の実施の3年目に伴い、指導計画の見直しを行う。また、評価方法の検討を継続させる。 ○ICTを活用した学習支援を実施する。		・各教科2件以上の公開授業を実施し、事後に意見交換等を行う。 ・授業評価アンケートを年2回(7月、12月)実施し、生徒の学習状況を把握し、授業改善を行う。 ・教科会議(適宜)、教務委員会(10回以上)を行い、年間を通して教育課程や評価方法、学校設定科目等の検討・研究を進める。 ・欠席等の生徒がいる場合には、オンライン授業を実施し、自宅学習の支援を行う。	教務
	◎自己の能力を高め、社会に貢献しようとする大きな志を持つ生徒の育成 ○進路指導の充実と生徒の進路保障	○進路実現を通して自らが社会に貢献したいと考える生徒を90%以上、3年生の進路指導に対する満足度を90%以上にする。 ○平均偏差値50以上の科目数を昨年度以上にする。 ○国公立大学志願者の合格者を65名以上、難関大学合格者を7名以上にする。 ○4年制大学における学校推薦型選抜・総合型選抜の合格者数を昨年度以上にする。 ○就職希望者の就職率を100%に、県内就職率を75%以上にする。		・進路講演会を各学年1回(3年生6月、2年生2月、1年生12月)、進路ガイダンスを3回(6月、7月、3月)実施する。 ・進路講演会等でこれからの未来社会と社会貢献の視点から、各自の進路希望を考える機会を設定する。 ・日本語リーディングリテラシーテストを継続し、思考力・読解力の到達度を分析し、教科指導に生かす。 ・進路検討会を3年生4回(4月、6月、11月、1月)、1・2年生2回(5月、12月)実施して生徒の志望状況や課題を共有し、面談を通して適切な助言・支援を行う。	進路指導
	●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○誠実で豊かな心を身につけ、人間的に成長したと答える生徒の割合及び自己有用感が高いと思う生徒を期首と比較して5ポイント以上向上させる。 ○ボランティア活動に参加した生徒をのべ400名以上にする。		・人権・同和教育に関するHR、講演会、職員研修を実施する。 ・道徳教育の全体計画に基づいて授業を実施する。 ・ボランティア活動に関する情報を提供し、参加を促す。
●健康・体づくり	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめについて相談しやすい雰囲気があると思う生徒85%以上にする。 ○いじめに対する組織的対応ができていると思う教員85%以上にする。		・いじめアンケートを4回(6月、9月、12月、2月)実施する。 ・いじめ認知・認知の対応マニュアルの見直しを行う。 ・いじめの対応についての職員研修を1回以上行う。 ・情報モラルに関する指導を行う。	生徒指導
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒を90%以上にする。		・望ましい食習慣や食の自己管理に関する情報を保健だより等で3回以上提供する。 ・食習慣に関するアンケートを2回実施し、結果をもとに必要な指導を実施する。	保健指導
	●安全に関する資質・能力の育成	○主体的な取り組みをとおして自転車通学生のヘルメット着用率を50%以上にする。 ○交通安全に気を付けて登下校している生徒を90%以上にする。		・生徒会や部活動等にヘルメット着用に向けた主体的な取り組みを促す。 ・ヘルメットに関する情報提供を行う。 ・生徒会など生徒たちから交通安全の意識向上の活動に取り組む。 ・高校生に係る交通事故のニュースなどを周知し、注意喚起を行う。	生徒指導
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年休取得14日以上の職員を85%以上にする。		・業務効率化のための提案を3回(8月、12月、2月)募り、素早い改善を行う。 ・「上履時間」を職員の目に触れる場所に掲示する。 ・時間外在校時間が45h/月を超えた職員には「上履時間」に関する説明及び時間外在校等時間削減のための面接を行う。 ・年休取得状況を毎月集約し、年休取得を呼びかける。	管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答する教員を85%以上にする。		・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・学年や関係者間での情報共有の機会をつくる。	教育相談
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					主な担当者
評価項目	重点取組内容	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を80%以上、教職員の割合を90%以上にする。 ○高校入試及び進路希望調査における志願倍率を1.01倍以上にする。		・学校運営協議会を3回実施する。 ・旭ヶ岡キャリアラボの生徒への周知に努め、充実させる。 ・旭ヶ岡キャリア塾を開催する。 ・本校生徒による小中学生対象の教室(小学生対象高校生ティーチャー、中学生対象パソコン講習会等)を行う。 ・生徒の主体的な活動を支援していく。 ・教務委員会を毎月1回以上実施し、普通科新コースにおける学校設定科目の指導内容・指導計画等を7月までにまとめ、中学生への説明会等で周知する。 ・学校だより及び学校HPを活用し、学校の広報活動に努める。	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ●・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり